

## 早稲田大学 政治経済学部 古典 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	国語 90 分
特徴・その他	例年通り、古・漢融合問題。古文の文章はリード文を参照すれば、内容もつかみやすい。漢文は白居易の漢詩で、知識（耳順など）を問う設問が目立つ。問題としては、政経学部の例年の傾向通りで目新しいものはなかった。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
(一)	甲 大神基政『竜鳴抄』 見慣れない文章だが、リード文を参照にして「音楽伝書」と言う視点でよんでいけば、内容的には容易な文章。	政経学部特有の知識（常識）を問う設問や、前後を読み取れば解答の導ける設問が多い。問三の趣旨問題も「水くきの跡」の理解、問四の「うつは物」の意味などが典型例である。文法・文学史は基本的。問七の合致問題は難問。文章と正しく照らし合わせ、消去をする。	標準
	乙 白居易『耳順吟』 詩文は、白居易自身の「耳順」に対する感慨について述べた文章。	設問は易しいが、ただ、知識がないと解けない。問九などは漢詩の内容というよりも、知識を問う。問十二は、直前の内容をつかめれば容易。	標準

### 〔総合コメント〕

政経学部特有の古文・漢文融合問題。文章は古・漢ともに読みやすく、内容もつかみやすい。知識を問う設問が多いので、普段の学習も読解問題を何となく解くのではなく、覚えるべき知識を意識的に学習することを勧める。いづれにしても政経学部の傾向・対策を徹底して行うことが肝要。